

## 早期収穫を可能にする 「ル レクチェ」のジョイント栽培

セイヨウナシ「ル レクチェ」はブランド品目として生産拡大が図られていますが、高度な栽培管理が必要な上に成園化まで10年以上を要することから栽培面積や生産量が伸び悩んでいます。そこで新潟県農業総合研究所園芸研究センターでは、日本なし等で普及が進んでいるジョイント栽培を「ル レクチェ」に応用した早期多収栽培技術を開発したので紹介します。

### ☆技術の概要

- ジョイント栽培の定植から収穫開始までの流れは以下の通りです（図1）。
  - 慣行栽培より多い167～333本/10aの苗木を準備する。
  - 苗木を樹間1～2m、列間3mの間隔で密植する。
  - ほ場に定植後に先端新梢を隣接樹とジョイントする。
- 定植6年目には1t/10a以上の収穫が可能になります（図2、3）。

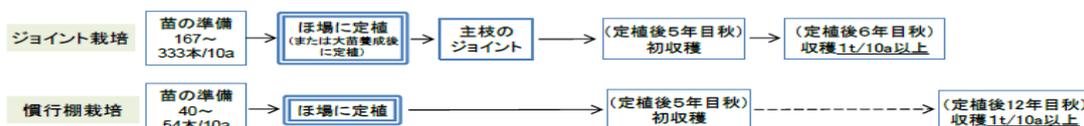


図1 ジョイント栽培と慣行棚栽培の収穫開始までの流れ

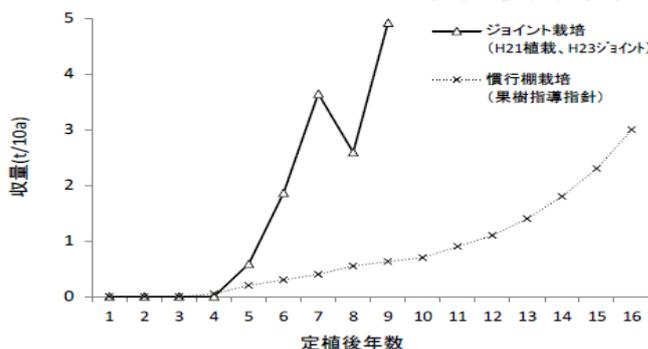


図2 定植後年数と10a 当たり収量の推移

注 ジョイント栽培の収量は樹間2m 列間3m 植えとして10aに換算した8年目の減収は隔年結果の影響による一時的なものである



図3 定植後9年目の着果状況

### ☆活用面での留意点

- ジョイント栽培は、神奈川県が開発した特許（特許第4895249号）です。利用に当たっては許諾を受ける必要があります。ジョイント栽培方法は神奈川県作成「ジョイント仕立て栽培マニュアル」に従って下さい。  
<http://www.pref.kanagawa.jp/uploaded/attachment/530381.pdf>（平成30年2月21日現在）
- 「ル レクチェ」は果実に生理障害が発生しやすいため、障害防止効果のある「マメナシ」等を台木に用いた苗木の使用をお勧めします。
- 長さ3m以上の大苗を養成後に定植することで、さらに成園化を早めることができます。新潟県研究成果情報「西洋なし「ル レクチェ」の大苗を利用したジョイント栽培による早期多収技術」をご参照下さい。  
<https://www.ari.pref.niigata.jp/Achievement/2019/seika14.pdf>
- 詳細については新潟県農業総合研究所園芸研究センター育種栽培科（0254-27-5555）にお問い合わせください。

（農研機構果樹茶業研究部門 研究推進部 果樹連携調整役 大崎 秀樹）